

鉄道ピクトリアル

2016年4月号 Vol.66 No.4 通巻No.916

<特集> 阪急電鉄神戸線

■表紙 ワンハンドル車40周年記念装飾の6050編成……焼田 健

梅田 2015-11-30

キヤノンEOS 5 D Mark II EF100-400mm F4.5-5.6L IS 絞りf6.3 タイム1/400 ISO100

■グラフ

六甲山麓のMaroon Liner (1~8ページ)

森本裕之・山中 茂・松本延之・早川昭文・瀧江宏昭

……………松葉 晃・今泉博之・浜村正弘・佐久間和博・森田 宏

大里信之・佐藤雅孝・竹内宗隆・島 隆昭

阪急神戸線回想——想い出の電車・風景 (92~93ページ)

……………小林 武・浜村正弘・真鍋裕司・山田康介

*

1950年代中頃の阪急西宮界隈 ……写真:生地健三・高見彰彦… 32

神戸線紀行 阪急神戸線'60~70年代の風景

……………写真:篠原 丞ほか… 36

阪急神戸線 阪神・淡路大震災からの復興の軌跡

……………解説:篠原 丞… 42

阪急神戸線 列車種別と行先 ……構成:焼田 健… 46

神戸線の主力車両 7000系・8000系 形態と組成のバリエーション

……………構成:編集部… 50

西宮北口のダイヤモンドクロッシングは今……………第6かいぎしつ… 54

*

Pictorial Color Gallery 富士山に見守られ ……松田 巧… 89

東京急行電鉄田園都市線5000系6ドア車取替用サハ5400・

5500・5800形/JR東日本E531系3000番代/大井川鐵道C

11190門デフ仕様で運転/阪堺電気軌道上町線住吉一住

吉公園間廃止ほか 94~97

トピック・フォト (各地・関東・中部・関西)…………… 98

ミャンマー、タイ、台湾の話題から ……白川 淳…106

小田急2200系、1300形の消えた頃(2)……………長内 宏…108

初春列車 2016……………写真:関 周一ほか…110

■本文

今月の話題:阪急電鉄神戸線……………編集部… 9

阪急神戸線の歴史過程……………三木 理史… 10

阪急電鉄神戸線 近年のダイヤ変遷

……………阪急電鉄(株)都市交通事業本部運輸部… 19

創業から現在まで 神戸線車両・運転のエピソード…篠原 丞… 55

阪急神戸線をたどる……………湯川 徹二… 71

*

鉄道の話題……………編集部… 31

鳥取県南部町に帰ってきた旧日ノ丸自動車デハ203号客車

……………光木義則・川上敬介・堤 一郎…113

JR北海道733系1000番代……………山口 義貴…114

変貌する福井駅周辺レポート……………根本 幸男…119

絵葉書のなかの国鉄ローカル線(14) 三角線……………白土 貞夫…122

伊豆急行200系の足跡(その2)……………津島 誠…124

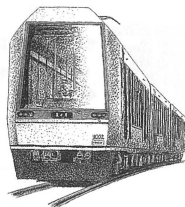
1月のメモ帳……………127

読者短信・情報ファイル……………128

後部車から……………132

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット:山本茂樹

今月の話題

阪急電鉄神戸線

京阪神間に展開される鉄道路線は大阪圏における都市間輸送の象徴をなしており、古くから路線形成や運輸・運転、営業に至るまで多彩な話題や興味に事欠かない。関西大手民鉄界にあって、大きな存在感を示す阪急電鉄は、まさにそうした京阪神間に路線を有しており、阪急電鉄の前身である箕面有馬電気軌道が開業した宝塚線、阪神間を結ぶ神戸線、京阪間の京都線を基軸とした路線網により、大阪圏の鉄道輸送に大きな役割を果たしている。阪急の3路線は歴史過程や輸送形態などにおいてさまざまな特徴を持っており、趣味・研究的側面はもとより、沿線利用者の関心も高いようだ。このうち、阪急発祥の路線としての宝塚線については2015年3月号(No.901)にて特集を構成、本号ではその続編として神戸線について、その興味と魅力を探ってみたいと思う。

阪急電鉄神戸線は、1910(明治43)年に宝塚線が開業して10年が経過した、1920(大正9)年7月に阪神間を高速で結ぶ本格的な都市間路線を目指して開業したものである。既存の阪神電気鉄道、国鉄より離れた六甲山麓に近い山側に路線を設定したことで、沿線は住宅地としても脚光を浴び、高級住宅地が相次いで開発されていった。その結果、沿線のイメージは大いに向上して、今日の阪急電鉄形成へと至る発展の足がかりとなったものである。梅田には大規模なターミナルが整備され、1936(昭和11)年には特急の梅田一三宮間25分運転も開始された。以来、今日まで快適性に優れ、安心・安全な鉄道として発展をみる阪急電鉄のイメージリーダーを主に神戸線が担ってきたわけであり、そうした足跡と事情、さらに今日における輸送・運転、施設をめぐる見所も多く、注目度はきわめて高いといえよう。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/ Japan